

事業概要

令和元年度（平成30年度実績）

目次

I 概要

1 設立の目的・沿革	
(1) 目的	1
(2) 沿革	1
2 業務内容	
(1) 定員	2
(2) 診療科目	2
3 組織・職員	2
4 施設概要	3

II 業務

1 医療型障がい児入所施設	
(1) 入所部門	4
(2) 通所部門	16
(3) 母子入所部門	22
2 診療相談	
(1) 一般入所の概要	23
(2) 外来患者の概要	23
(3) 整形外科	24
(4) 小児科	26
(5) 耳鼻咽喉科	27
(6) 精神科	27
(7) リハビリテーション科	28
(8) その他の診療科	31
(9) 薬剤部、臨床検査、放射線室、地域支援室	33
3 短期入所事業及び日中一時支援事業	35
4 保育所等訪問支援及び障害児相談支援・特定相談支援事業	35
5 発達障がい者支援センター	36
(1) 設立の目的	36
(2) 発達障がいとは	36
(3) 業務内容	37
(4) 実施件数	37
(5) 主催研修の実施状況	39
(6) 被災した障がい児に対する医療支援事業実施状況	39
6 その他	40
(1) 実習生・ボランティア受入	40
(2) 外部講演会講師・ケース検討会等	40
(3) 公開講座	42

I 概 要

1 設立の目的・沿革

(1) 目 的

当センターは、児童福祉法による障害児入所施設であると同時に医療法による病院であり、手足または体幹の機能の不自由な児童に対し、通所あるいは入所により、治療・訓練・生活指導及び教育を有機的に行い、それに加えて総合的な外来診療部門を充実して、障がいの早期発見並びに早期治療・訓練及び教育を行うための総合療育を目的としている。

(2) 沿 革

昭和38年 1月 1日	郡山療育園開園
昭和38年 1月 1日	初代園長として医大教授 鈴木良平医師兼務発令
昭和38年 4月 1日	2代園長として菊地稔医師発令
昭和38年 5月 1日	福島県指令第702号病院開設許可
昭和38年 6月 1日	児童入園開始
昭和42年 1月 1日	3代園長として鬼満雅医師発令
昭和43年 8月 3日	皇太子殿下同妃殿下ご視察
昭和46年 5月 6日	母子入園開始
昭和48年 6月 3日	園旗・シンボルマーク・園歌の制定・記念像門柱の建設
昭和54年 9月12日	ボイラー監視室増築
昭和59年 7月 7日	心身障害児総合療育センター並びに養護教育センター整備事業の着手（現在地において全面改築）
昭和62年 4月 1日	福島県心身障害児総合療育センターと改称
平成 5年 6月 1日	創立30周年記念式典挙行 記念誌「30年のあゆみ」を刊行
平成 7年 7月28日	高円宮同妃殿下ご視察
平成11年 4月 1日	4代所長として渡辺真医師発令
平成12年 9月16日	皇太子殿下同妃殿下ご視察
平成14年 4月 1日	5代所長として富樫薫医師発令
平成15年 4月 1日	居宅生活支援として児童短期入所事業開始
平成16年 4月 1日	福島県総合療育センターと改称
平成17年 4月 1日	「地域連携室」設置 肢体不自由児地域リハビリテーション支援事業開始
平成18年10月31日	「発達障がい者支援センター」設置
平成19年 4月 1日	リハビリテーション科新設 「地域連携室」を「地域支援室」へ改称
平成24年 4月 1日	6代所長として武田浩一郎医師発令
平成25年10月28日	開園50周年記念式典開催
平成26年10月14日	放課後等デイサービス開始
平成27年 4月 1日	保育所等訪問支援、障がい児相談支援、特定相談支援開始

2 業務内容

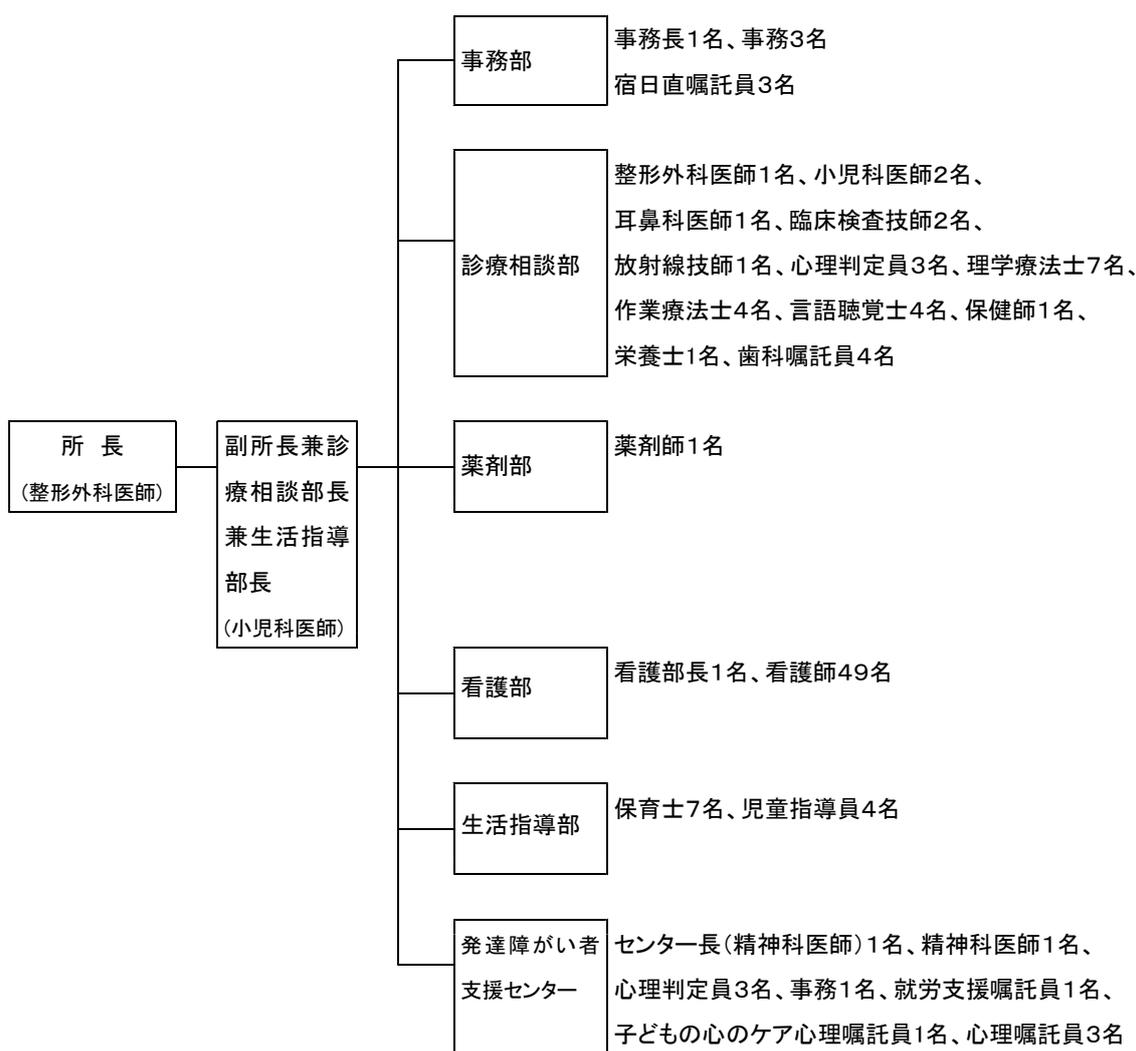
(1) 定員

- ・ 措置及び契約入所80名、一般入所10名
- ・ 契約通所20名

(2) 診療科目

整形外科、小児科、耳鼻咽喉科、精神科、眼科、泌尿器科、歯科、リハビリテーション科

3 組織・職員



正規職員 101 名

嘱託員 12 名

計 113 名(R1. 5. 1現在)

4 施設概要

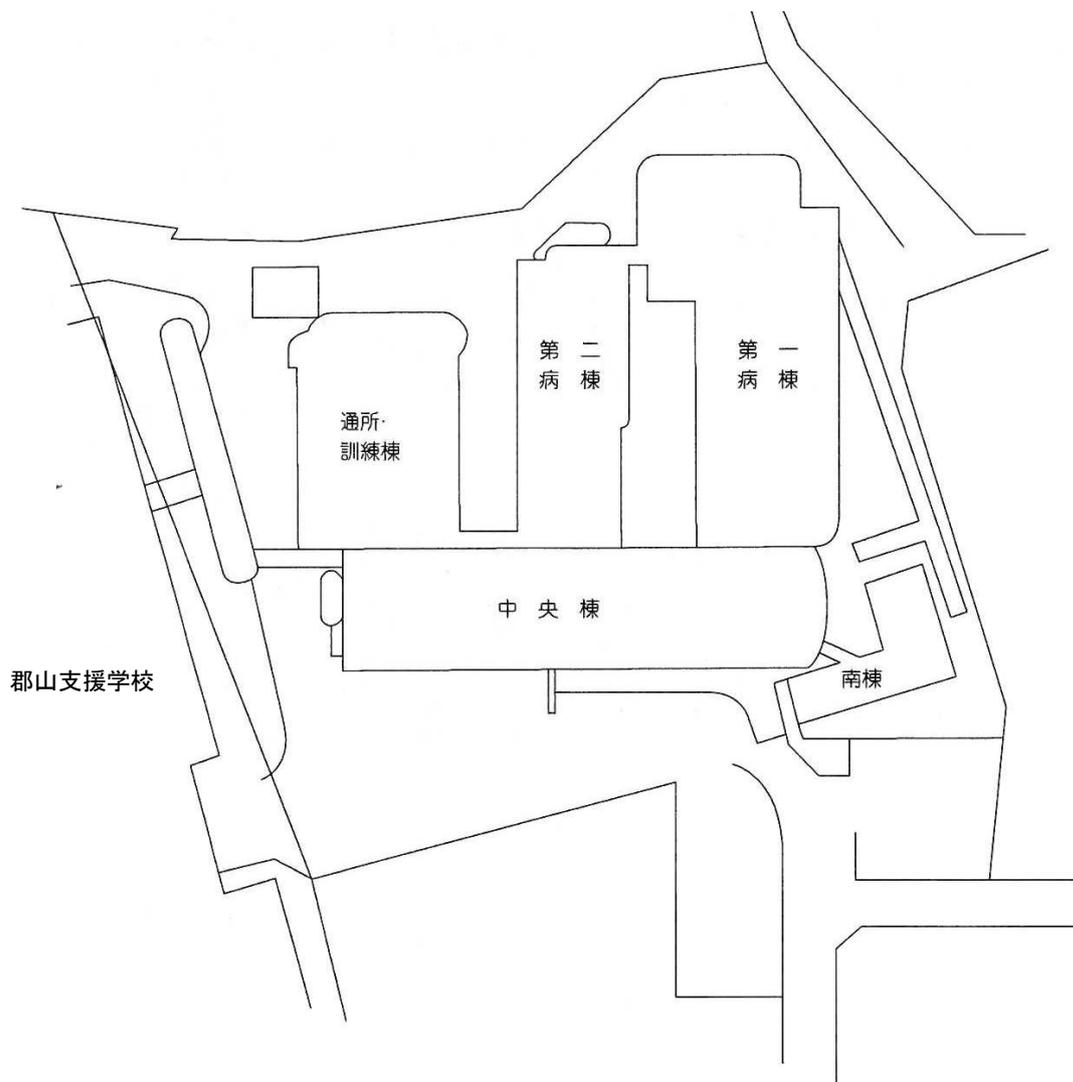
○ 土地

敷地面積 … 12,215.74㎡ (内借入地10,964㎡)

○ 建物

庁舎	鉄筋コンクリート造、亜鉛鉄板葺、3階建 1部2階 (うち養護教育センター3F 1,954㎡)	… 8,662.76㎡
南棟	鉄骨造、ストレート波板葺、1部2階建	… 433.65㎡
倉庫	パネル組立式軽量鉄骨造、鉄板葺、平屋建	… 43.52㎡
車庫	鉄骨、鉄板葺、平屋建	… 104.16㎡

建物配置図



Ⅱ 業 務

1 医療型障がい児入所施設

(1) 入 所 部 門

[本年度の特徴]

2つの病棟に未就学児童から高校生まで入所している。ここ数年、未就学児童の手術及び後療法目的の入所が増加しているとともに、社会的要因で入所する低年齢の児童も増えてきている。また、重度障がい児の入所が増えつつある。

児童日課表及び病棟職員業務内容 (1) … 1病棟、 (2) … 2病棟

時刻	勤務形態	児童日課	病棟職員の業務内容(看護・指導)
5:00	深夜勤務(看護師)		巡視、洗面準備、与薬準備、経管栄養準備(2)、注入実施(2)
6:00		起床	起床、更衣、洗面、排泄介助、オムツ交換 バイタルチェック 経管栄養注入(2) 吸入、吸引
7:00		朝の集い、朝食、水分補給	与薬、処置、食事介助、登校準備、医ケア物品消毒
8:00		登校	当直医報告、申し送り、オムツ交換、登校介助、記録、 (1)リハビリ合同カンファランス
8:30	日勤(看護師)		
9:00		訓練	リネン交換、環境整理、清掃、入浴準備、吸入準備、訓練後登校介助、車イス坐位保持清掃、衛生材料等物品補充
9:30	遅出(保育士)		
10:00		保育	衣類の整理と準備、保育、申し送り、カンファランス、オムツ交換、医療廃棄物の処理
11:00	看護(看護師)		与薬準備、注入準備(2)、内服薬分包、Dr.カンファ(2)、経管栄養注入(2)、オムツ交換
12:00	日勤(看護師)	下校検温、昼食	バイタルチェック、与薬、昼食介助、経管栄養注入(2)、吸入、吸引、医ケア物品消毒
13:00	遅出(保育士)	登校	登校介助、余暇指導
14:00	看護(看護師)	入浴、水分補給	入浴、おやつ介助、洗面準備、医療的ケア(処置)
15:00	遅出(保育士)	訓練、講堂遊び、おやつ、余暇活動	オムツ交換、記録、おやつ介助、余暇指導、講堂遊び(1)
16:00	看護(看護師)	余暇活動、グループワーク	処置、申し送り、グループワーク(2)、経管栄養注入(2)、記録、学校用吸引器洗浄、物品補充
16:30	準夜勤務(看護師)		
17:00		夕食、歯磨き	夕食介助、更衣介助、歯磨き指導
17:15			
18:00		学習(1)18:30~19:00	学習指導(1)、バイタルチェック、吸入、吸引、医ケア物品消毒
18:15			
19:00	深夜勤務(看護師)	水分補給	与薬、処置、排泄介助、オムツ交換、余暇指導
20:00		就寝準備、消灯(未就児)	就寝準備介助、朝の衣類・オムツ・登校の準備、当直医報告、経管栄養注入(2)
21:00		就寝消灯	巡視、記録、日記添削、清掃、経管栄養注入(2)
22:00	看護(看護師)		巡視、体位変換、吸入(2)、吸引(2)、医ケア物品消毒
23:00			巡視、体位変換、記録、装具類の点検
0:00			巡視、申し送り、体位変換
0:30	深夜勤務(看護師)		
1:00			巡視、体位変換、検査準備、与薬準備
1:15			
2:00			巡視、体位変換、検査準備、与薬準備
3:00	看護(看護師)		巡視、体位変換、看護計画作成・評価・修正
4:00			巡視、体位変換、経管栄養準備、オムツ交換、吸入準備

日勤8:30~17:15、準夜16:30~1:15、深夜0:30~9:15、遅出日勤9:30~18:15、

早出勤6:45~15:30、遅出勤10:30~19:15

看護師 = (日勤・準夜・深夜・遅出日勤)、保育士 = (日勤・早出勤・遅出勤)

① 生活指導

入所児童の障がい及び発達レベルに配慮しながら、生活リズムを整え、食事・排泄・衣服の着脱等の基本的な生活習慣の習得を支援するとともに、集団生活の中で余暇時間を活用し、個別・グループ別の活動や季節の行事を組み入れる等の工夫により、豊かな情操と社会性を育み、心身の成長・発達を促すよう努めている。

＜生活指導目標＞

- 1 個々の療育目標に応じた基本的な生活習慣を身に付ける。
- 2 集団生活を通し、お互いを思いやり協力して生活する。
- 3 余暇時間を楽しみながら生活する。

月間生活指導目標及び行事

☆は学校行事

月	月間指導目標	指導内容	主な行事
4	友だちと仲良くする	・入学、進級したことを自覚する ・友だちを思いやる ・センターでの生活を理解する	・入所 ・リエンション ☆入学式 ☆始業式 ・保育始め
5	障がいを理解する	・入所目的を自覚する ・友だちを思いやる ・車椅子、補装具を大切にする	・児童会役員選挙 ・児童会総会 ・春の遠足（未就学児）
6	時間を守る	・大きな声で挨拶、返事をする ・基本的な生活習慣を身につける ・規則正しい生活をする	・交流保育
7	目標を持って生活する	・暑さに負けず治療、訓練に励む ・夏休みを計画的に過ごす ・社会経験を積む	・七夕 ・保育参観 ・保育終了式 ☆終業式 ・親子レク
8	積極的に行事に参加する	・楽しく行事に参加する ・家族交流を大切にする	・夏休み家族交流期間 ・保育始め ☆始業式
9	作り上げる喜びを知る	・生活の中で創意工夫をする	・お月見 ・秋の遠足（未就学児）
10	ものを大切にする	・身の回りのものを大切にする ・整理整頓をする	・運動会（未就学児）
11	感謝の気持ちを持つ	・身の回りの人に感謝する ・素直に“ありがとう”が言える	
12	みんなで協力し合う	・みんなで協力しあい、楽しいクリスマス会にする ・家族交流を大切にする	・本宮ソフォニックバンド 慰問 ・クリスマス会 ・保育終了式 ☆終業式 ・冬休み家族交流期間
1	新たな気持ちで生活する	・伝統的行事を体験する ・毎日の生活を見直す	・保育始め ☆始業式
2	自立に向けて取り組む	・自分でできることを確認し、努力する ・自分の進路をよく考える	・豆まき
3	自分をよく見つめ考える	・一年間をよく振り返ってみる ・新年度に向けての抱負を持つ ・家族交流を大切にする	・ひな祭り 保育終了式 ・卒業進級を祝う会 ・春休み家族交流期間 ☆卒業式、修了式、入試

[月の行事]…児童集会（第4月）、誕生会（第3木）、散髪（第4月…7・1月は休み）

[週の行事]…講堂遊び（火・木）、パソコンクラブ（木）、グループワーク（月曜日～金曜日）

② 未就学児保育

[保育目標]

- ・ 治療及び訓練の効果を相乗的に高め、入所している未就学児各自が楽しみながら生活できるよう支援する。
- ☆ 具体的な実施にあたっては、医療型児童発達支援おひさまの年間保育計画及び月間保育カリキュラムに基づき、障がい及び発達レベルに応じた「感覚遊び」や「ポータージ」を積極的に取り入れている。

[保育時間]

月曜日から金曜日 10:00～11:30

☆ 第2水曜日は音楽療法

③ 看護体制

[看護配置基準] 平成30年4月1日現在

障害者施設等入院基本料2 (10対1)

特殊疾患入院施設管理加算 2病棟40床

[看護単位]

- ・ 第1病棟 (50床) 看護師長1名 看護職員17名 (計18名)
特性: 小児整形外科的疾患の手術・後療法を中心としたリハビリ治療。
社会復帰を目標にリハビリ、生活指導、訓練に重点を置いて療育。
- ・ 第2病棟 (40床) 看護師長1名 看護職員21名 専門員1名 (計23名)
特性: 重度重複障がい児が大半を占める。
医療的看護の必要度が高い
- ・ 外来 看護師長1名 看護職員9名 専門員2名 (計12名)

[看護部理念]

こどもと家族から信頼される療育を実践する。

[看護目標]

- 1 看護サービスの向上を図る
 - ① 看護提供方式 (機能別・プライマリーナーシング) を確立し実践する
 - ② 利用児及び家族の思いに寄り添い信頼関係を深める
- 2 事故防止を図り安全な看護を提供する
 - ① 医療安全管理マニュアルに基づいた業務を遂行する
 - ② インシデントレポートを共有し医療安全対策に活かす
 - ③ 医療環境を整え業務の安全を図る
- 3 看護職の資質の向上を図る
 - ① 看護実践能力評価を活かし継続教育を充実させる
 - ② 院内外研修の受講や看護研究を通し看護実践の強化及び発展に努める
 - ③ 個々の職務を意識し看護業務を実践する

④ SST (社会生活技能訓練)

[目的]

障がいを持つ入所児が『自信を持って生き生きと地域の中で自立して生活する。』ためのコミュニケーション能力および生活技能の習得を目的とする。

[活動内容]

- ・ 対人コミュニケーション: 挨拶・感謝・お礼、質問のしかた等

- 生活関連動作：道路の歩き方、信号機の見方、買い物のしかた等

[実施対象児と活動時間]

- 対象児：平成30年度は、対象児なし。

[スタッフ]

作業療法士、保育士、看護師、心理判定員

[方法]（平成26年度実施事例）

社会生活経験が極めて少ない児童のために、スタッフが作成したビデオまたは、職員が手本を見せ、模擬的環境で練習し、地域で実習（プログラムと実施状況を参照）を行うという一連の流れを繰り返す方法をとった。また、家族との連携を取りやすくするため、各回毎に“SSTだより”を作成し、SSTの実施内容を家族に伝える形で行っていたが、現在は対象者がいないため実施していない。

プログラムと実施状況

クール	内 容（テーマ）	期 間	回数
1	<バスに乗って買い物をしよう！> ① お金の見分け方と使い方 ② 道路の歩き方 ③ バスの乗り方 ④ 買いもの	H26. 5. 8～H26. 7. 24	8回
2	<電車に乗っておつかいに行こう！> ① お願いのしかた ② 電車の乗り方	H26. 9. 11～H26. 11. 13	6回
3	<お客様を招待して、 ティーパーティーを開こう！> ① 買いもののしかた ② ティーパーティーの内容を考える ③ 調理の仕方	H27. 1. 8～H27. 2. 12	6回

⑤ 自治活動

[あおぞら児童会]

クラブ活動や各行事への参加を通して集団生活のルールを守り、協力しあい明るく快適なセンター生活を送るとともに、責任感や自主性を養う。未就学児を除く入所児童全員で構成し、生活指導部職員が助言・指導を行う。

a 執行部

入所児童のうち、立会演説及び選挙により、会長、副会長及び書記の三役が選出任命される。児童集会、誕生会等の毎月定例で開催されるものや各行事（クリスマス会、卒業進級を祝う会等）の準備・運営を行う。

主な活動	時間・場所	活 動 内 容
児童集会	PM6：30 児童食堂	第4月曜日。月の目標の設定と反省行事予定、クラブ報告、生活上の留意点他
誕生会	PM6：30～ 児童食堂	第1病棟第3木曜日。児童会役員の司会で該当月の誕生児を祝う。
	PM4：00～ たんぽぽ室	第2病棟第3木曜日。該当月の誕生児を祝う。
児童会主催の行事	児童会総会、クリスマス会、卒業進級を祝う会	

※その他、行事開催に伴う準備のため、その都度会議を開催する

b クラブ活動

	事 項	活 動 内 容
パソコンクラブ	毎週木曜日 P M4:00～5:00の定期的活動	パソコンの基礎を学ぶ タイピング練習 クリスマス会の招待状作成 アルバム作成

⑥ 訓練部門

ア 理学療法

・ 週間予定表

	月	火	水	木	金
9:00～	入所児	入所児	入所児	入所児	入所児
9:45～					
10:30～					
11:15～					
13:15～			P T会議		
14:00～					
14:45～	入所児	入所児	入所児	入所児	入所児
15:30～					
16:15～					療法士室会議

・座位保持診(月)(13:15～)

・第2・4週術前・術後会議(火)
(8:30～9:00)

・補装具診(火)(13:30～)

外来訓練・通所児訓練

・第1病棟リハ会議(木)
(8:30～9:00)

・第2病棟診(火)(9:00～)

・第4週(木)

- 運営会議
- 感染対策委員会
- 安全管理委員会

・ 入所・理学療法疾患別対象児数

	28年度	29年度	30年度
脳性麻痺(リスクを含む)	38	38	38
その他の脳原性疾患	17	27	25
二分脊椎・脊推疾患	4	3	4
進行性神経・筋疾患	10	4	2
骨・関節疾患	12	13	23
染色体異常	4	3	3
(精神)運動発達遅滞	2	2	1
その他	2	2	4
計	89	92	100

イ 作業療法

・ 週間予定表

	月				火				水				木				金				
9:00~	入	入	入	入	入	入	入	入	入	入	入	入	OT会議	入	入	入	入	入	入	入	入
9:45~																					
10:30~																					
11:15~																					
12:00~	入	入	入	入					入	入	入	入	入	入	入	入	入	入	入	入	
13:15~	※								入										入		
14:00~	入			入						入	入	入	入	入	入	入	入	入		入	
14:45~	入										入	入	入	入	入	入				入	
15:30~		入		入	入			入	入	入	入	入	入	入	入	入	入			入	
16:15~		入		入	入	入	入	入	入	入	入	入	入	入	入	入	療法士室会議				

※ … 第1・3週、座位保持診

入 … 入所児

■ : 外来訓練・通所児訓練

・ 疾患別対象児数

	28年度	29年度	30年度
脳性麻痺	24	29	35
その他の脳性運動障害 (※)	12	22	20
二分脊椎	0	0	1
先天性股関節脱臼	0	0	0
骨系統疾患	0	0	2
外傷後遺症	0	0	0
進行性神経・筋疾患	6	4	1
その他の整形外科	2	0	0
その他	6	3	4
計	50	58	63

※頭部外傷を含む

ウ 言語聴覚療法

・ 週間予定表

	月	火	水	木	金
9:00～					
9:45～					
10:50～					
13:10～			入		
14:15～				入	
15:20～		入		入	
16:25～				入	

入 … 入所児

外来訓練

・ 疾患別対象児数

	28年度	29年度	30年度
脳性麻痺	4	4	4
その他の脳性運動障害 (※)	3	0	0
二分脊椎	0	0	0
先天性股関節脱臼	0	0	0
骨系統疾患	0	0	0
外傷後遺症	2	2	2
進行性神経・筋疾患	1	0	0
その他	0	0	0
計	10	6	6

心理検査・療法

[本年度の特徴]

入所児童に対する心理検査及び心理療法を随時実施している。

近年、被虐待児童や、長期入所児に対する心理的支援のニーズが高くなっている。昨年度より正規職員が1名増となったこともあり、心理療法の件数が大幅に増加した。

・ 年間件数

		28年度	29年度	30年度
心理検査	知能検査	0	5	4
	発達検査	0	4	5
	性格検査	0	0	0
	その他	0	3	4
心理療法	集団	0	0	0
	個人	0	15	120
	箱庭	0	0	0

		28年度	29年度	30年度
	その他	0	0	0
	計	0	27	133

⑦ 給食部門

各個人の発育や障害の程度を考慮し、過不足のない栄養と喫食能力に合った食形態にて提供している。

また、給食がセンターの生活において楽しい時間となるよう、献立の内容や盛りつけ等、入所児等に喜んでもらえるよう工夫している。

・平成30年度 平均給与栄養量(常食)

月別日平均 熱量・ 栄養素	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 日平均
エネルギー (kcal)	1529	1528	1608	1594	1583	1597	1638	1653	1644	1638	1639	1631	1607
たんぱく質 (g)	67.6	67.6	64.9	65.5	64.7	65.1	64.7	64.7	65.9	66.3	65.7	65.2	65.7
脂肪 (g)	50.2	49.7	48.3	48.1	47.5	48.6	49.1	48.7	47.1	47.3	49.0	47.7	48.4
炭水化物 (g)	188.4	198.8	210.2	193.8	204.0	214.0	228.6	233.1	236.8	232.3	232.1	230.6	216.9
カルシウム (mg)	643	627	645	634	632	646	662	666	675	679	680	657	605
鉄 (mg)	98.0	9.8	10.2	9.6	9.8	9.9	8.7	8.8	8.9	9.0	8.6	9.9	16.8
ビタミンA (μ gRE)	593	590	620	626	578	612	631	667	656	638	644	682	628
ビタミンB1 (mg)	1.80	1.70	1.70	1.70	1.70	1.70	1.41	1.46	1.47	1.49	1.46	1.69	1.61
ビタミンB2 (mg)	1.20	6.90	1.20	1.20	1.20	1.20	1.12	1.13	1.15	1.14	1.15	1.14	1.64
ビタミンC (mg)	99	1	94	89	79	77	80	94	94	100	102	103	84
食物繊維 (g)	6.7	12.5	14.3	13.8	13.6	13.9	14.3	14.8	14.8	14.8	14.8	14.7	13.6
食塩相当量 (g)	6.8	6.7	6.9	6.8	6.7	6.7	6.6	7.0	6.9	6.6	6.5	6.9	6.8
炭水化物 エネルギー 比率(%)	49	52	52	49	52	54	56	56	58	57	57	57	54
脂肪 エネルギー 比率(%)	30	29	27	27	27	27	27	27	26	26	27	26	27

※小学校中～高学年を基準とした給与量(残食量より算出した摂取量)。

・平成30年度 食品群別平均給与量

単位(g)

食品群別 / 月平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 日平均
穀類	301	305	300	368	369	370	324	311	302	290	308	301	321
いも及びでん粉類	60	58	43	54	37	34	32	47	46	42	46	42	45
砂糖及び甘味類	4	5	4	4	4	4	5	5	5	5	6	5	5
豆類	49	51	50	49	46	47	36	35	33	38	36	33	42
種実類	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野菜類	299	306	293	296	272	294	297	316	292	277	292	285	293
果実類	35	28	29	33	28	32	55	57	78	78	73	82	51
きのこ類	6	9	11	9	11	14	26	23	24	94	24	23	23
藻類	2	3	1	1	0	1	2	1	1	1	1	1	1
魚介類	39	48	38	43	43	45	44	43	44	47	33	40	42
肉類	114	105	109	112	107	109	115	115	121	113	115	113	112
卵類	13	21	13	17	14	14	16	15	12	18	18	17	16
乳類	339	338	346	330	335	333	361	355	356	347	356	322	343
油脂類	10	11	13	12	11	12	11	11	10	11	11	11	11
調味料及び香辛料	31	32	33	31	33	34	35	36	34	35	36	36	34

※小学校中～高学年を基準とした給与量。

・平成30年度 平均給与栄養量

食 品 群 別

食 品 群 別	目標量 (g)	給与量 (g)
穀 類	300	321
いも及びでん粉類	50	45
砂糖及 甘味類	9	5
豆 類	65	42
種 実 類	3	0
野 菜 類	300	293
果 実 類	40	51
きのこ類	15	23
藻 類	5	1
魚 介 類	55	42
肉 類	90	112
卵 類	20	16
乳 類	280	343
油 脂 類	10	11
調味料及 香料	24	34

エネルギー及び栄養素

	推定エネルギー 必要量 及び推奨量	給与量
エネルギー (kcal)	1,600	1,607
たん白質 (g)	60.0	65.7
脂質 (g)	45.0	48.4
炭水化物 (g)	230.0	216.9
カルシウム (mg)	650	605
鉄 (mg)	9.0	16.8
ビタミンA (μ gRE)	550	628
ビタミンB1 (mg)	1.00	1.61
ビタミンB2 (mg)	1.10	1.64
ビタミンC (mg)	60	84
食物繊維 (g)	13.0	13.6
食塩相当量 (g)	8.0	6.8
炭水化物エネルギー比(50~60%)		54
脂肪エネルギー比率(20~30%)		27

※推定エネルギー必要量及び各栄養素の推奨量は、小学校中～高学年を基準とした。

・給食延人数

月	措置入所・契約入所			一般入所	短期入所	母子入所	通所	検食	合計
	常食・一口大	きざみ	ペースト						
4月	684	473	470	388	85	0	26	90	2,216
5月	724	344	732	792	80	0	45	93	2,810
6月	1,160	333	758	491	75	0	34	90	2,941
7月	1,329	404	672	96	129	0	25	90	2,745
8月	1,110	389	453	122	150	0	10	93	2,327
9月	1,433	326	653	323	86	0	43	90	2,954
10月	1,483	163	463	411	73	37	42	93	2,765
11月	1,641	244	509	325	80	0	53	90	2,942
12月	1,144	143	679	192	92	0	192	90	2,532
1月	1,538	442	851	46	109	0	46	93	3,125
2月	1,138	493	902	54	53	0	46	84	2,770
3月	1,123	313	571	244	94	0	34	93	2,472
合計	14,507	4,067	7,713	3,484	1,106	37	596	1,089	32,599

きざみ: 常食を5mm角に刻んだ状態
ペースト: ペースト状にしたものにとろみをつけた状態

⑧ 入所関係統計資料

表1 入退所状況

・月別初日在籍児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	在籍延人数	1日平均
28年度	38	45	43	47	44	43	45	49	49	45	46	45	17,433(0)	47.7(0)
29年度	38	40	45	44	48	48	47	48	52	52	51	49	17,406(53)	47.7(0.14)
30年度	35	40	43	45	49	46	46	47	49	42	42	45	16,561(100)	45.1(0.27)

(): 母子入所 再掲

・月別入所・退所児数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日平均 在籍児数
入所	7	13	12	15	11	6	6	10	7	5	9	8	109	
退所	3	10	9	11	14	6	6	7	14	6	5	17	108	
在籍児数 (延)	1,142	1,256	1,386	1,466	1,504	1,399	1,537	1,484	1,471	1,288	1,211	1,309	16,453	45.1

表2 病類別構成 (各年度3月1日現在)

	28年度	29年度	30年度
脳性麻痺	19	22	19
その他の脳性運動障害(※)	14	14	14
ペルテス病	1	3	4
二分脊椎	0	0	0
先天性股関節脱臼	0	0	0
先天性内反足	0	0	0
骨系統疾患	0	0	0
外傷後遺症	0	0	0
進行性神経・筋疾患	4	1	0
その他の整形外科疾患	0	0	3
その他	7	9	2
計	45	49	42

※ 頭部外傷を含む

表3 ADL関係 在籍児童数：42 (平成31年3月1日現在)

	食	事	更	衣	排	泄	整	容	入	浴	歩	行
自 立	24	14	16	11	10	11						
一 部 介 助	1	8	10	4	5	5						
全 介 助	17	20	16	27	27	26						

表4 学齢別構成 (各年度3月1日現在)

	28年度	29年度	30年度
未 就 学 児	4	4	7
小 学 生	17	28	21
中 学 生	9	5	11
高 校 生	15	12	3
そ の 他	0	0	0
計	45	49	42

表5 居住地別構成 (各年度3月1日現在)

		28年度	29年度	30年度
県北	福島市	6	7	9
	二本松市	2	1	0
	伊達市	1	0	0
	本宮市	0	1	0
	伊達郡	0	0	1
	安達郡	0	0	0
県北計		9(20.0%)	9(18.4%)	10(23.8%)
県中	郡山市	9	16	10
	須賀川市	3	3	2
	田村市	2	2	1
	岩瀬郡	0	0	0
	石川郡	0	0	0
	田村郡	1	1	1
県中計		15(33.3%)	22(44.9%)	14(33.3%)
県南	白河市	4	1	2
	西白河郡	2	2	3
	東白川郡	0	0	0
県南計		6(13.3%)	3(6.1%)	5(11.9%)
会津	会津若松市	3	3	2
	喜多方市	1	1	3
	耶麻郡	1	1	0
	河沼郡	1	1	1
	大沼郡	0	2	3
会津計		6(13.3%)	8(16.3%)	9(21.4%)
南会津郡		5(11.1%)	4(8.2%)	2(4.8%)
相双	相馬市	0	0	0
	南相馬市	1	1	0
	相馬郡	0	0	0
	双葉郡	0	0	0
相双計		1(2.2%)	1(2.0%)	0(0.0%)
いわき市		3(6.7%)	2(4.1%)	2(4.8%)
県外		0	0	0
その他(不定)		0	0	0
合計		45(100%)	49(100%)	42(100%)

表6 在所期間別構成 (各年度3月1日現在)

	3ヶ月未満	3ヶ月以上 6ヶ月未満	6ヶ月以上 1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	計
28年度	3	4	6	5	5	6	16	45
29年度	5	10	8	5	2	5	14	49
30年度	4	7	6	6	3	6	10	42

(2) 通所部門

① 医療型児童発達支援 おひさま

[本年度の特徴]

就学前の幼児を対象としているが医療・介護面の全身状態や、精神発達面の較差が大きくなる傾向にある。

<年間目標>

- 1 安心して通所する
- 2 集団のなかで楽しく遊ぶ
- 3 基本的な生活習慣を身につける

<指導目標>

- ・ 日常生活リズムを身につけられるよう支援する
- ・ 友達や先生とのかかわりを通して、人とかかわることの楽しさを伝える
- ・ 季節の移り変わりを知り、自然に関心を持てるよう支援する
- ・ 遊びを通して経験の幅を広げる工夫をする
- ・ 人の話を聞いたり、音楽遊びを楽しんで行えるよう支援する
- ・ 身体を動かす楽しさを知ることができるよう支援する
- ・ 絵画や物を作ったりすることに、興味や関心を持てるよう支援する
- ・ グループ別保育で、ひとりひとりの発達に応じた遊びを提供する

<日課表>

時間	一日の活動内容	子供の活動のねらいと留意点
9:30	通所 検温	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育に来たという気持ちを育て、安心して集団活動に入れるよう促す ・ 外来受診、訓練時間の確認 ・ リハビリテーション科医師による診察、健康状態の把握。必要があれば外来受診の連絡調整
9:45	健康チェック 排泄	
10:00	朝の挨拶・はとぼ っぼ体操 保育（着席） 呼名 歌 カンダワーク カリキュラムによる活動 水分補給 ポータージ 終わりの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者と共に挨拶をし、リズムに合わせて身体を動かす ・ 保護者と別れ、親子分離での設定保育 ・ 名前を呼ばれたことで、一定の反応を引き出す。（繰り返し行うことで一定の反応を獲得する） ・ 始まりの歌、季節の歌、手あそびの歌 ・ 各自の出席ノートにシールを貼る ・ 感覚遊びを中心とした活動 ・ 麦茶を飲む。保護者以外の人からでも飲めるようにする。 ・ 個別支援計画に基づき行う。 ・ 保護者を呼ぶ。再会場面を大切にする。
11:20	自主訓練	みんなで励まし合って行う。
12:00	昼食 歯みがき指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順の写真をしながら手を洗って席に着く ・ それぞれの座位保持装置や仮に座って保護者の介助のもと食事をする ・ 2学期より年長児は職員による食事指導 ・ 週間計画に基づき歯科衛生士や職員による歯みがき指導を行う
13:15	保育 カリキュラムによる活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親子分離での設定保育 ・ 感覚遊びを中心とした活動 ・ 各月の行事、季節の行事も多く取り入れ、保護者にも知ってもらう ・ 保護者と共に降所の挨拶をする
14:15	保育終了	

ア 月間行事

月	目 標	行 事
4月	・楽しんで保育に参加する ・新しい先生や友達を知る	・入所式 ・保育始め
5月	・友達と一緒にさまざまなことを体験する	・春の遠足 ・体験保育 ・端午の節句
6月	・地域の幼稚園との交流を通して、その雰囲気やいろいろな人とのかかわりを体験する	・富田幼稚園との交流保育 ・プール開き ・自由参観
7月	・水遊びを体験する	・七夕 ・保育終業式
8月	・音楽遊びを楽しむ	・2学期保育始め
9月	・行事に楽しく参加する	・お月見 ・園外保育（電車に乗ろう） ・体験保育
10月	・身体をたくさん動かす	・運動会
11月	・自分なりの表現活動をする	・七五三 ・保育参観 ・体験保育
12月	・歌、劇、踊りなどをみんなの前で発表する	・クリスマス会 ・保育終業式
1月	・正月の伝統遊びを体験する	・3学期保育始め
2月	・身体を動かして遊ぶ	・豆まき ・自由参観
3月	・友達と一緒に遊ぶ楽しさを知る	・ひなまつり ・お別れ会 ・保育修了式 ・卒所式

イ 保護者教室

[学 習 会]

目的：保護者が子供の状態を正しく理解し、よりよい接し方やケアの方法を学ぶ手助けとなるよう、講話や見学などの機会を提供する。

[レクリエーション]

目的：保護者同士の交流を目的とし、気分転換やリラクゼーションを図りながら、保護者同士の連帯感を深める。

学習会		レクリエーション	
4月16日	年間計画について	4月16日	自己紹介カード作成
5月10日	整形外科医講話		
6月1日	歯科衛生士講話	6月18日	先輩お母さんと語る会
7月9日	言語聴覚士講話	9月25日	卒所製作についての話し合い
9月6日	保健師講話	10月3日	パパ達の交流会

学習会		レクリエーション	
10月4日	小児科医講話	11月19日	お散歩
11月22日	放課後等デイサービス事業所 見学	12月17日	クリスマス会
12月3日	理学療法士講話	1月21日	パパ達の交流会
1月17日	栄養士講話	3月6日	奉仕作業
2月25日	今年度の反省と次年度の計画	3月12日	お別れ会

② 放課後等デイサービス ひだまり（平成26年10月から事業開始）

当該事業は、障がい児が授業の終了後又は学校の休業日に当センターへ通い、社会生活能力等の向上のために、多彩な専門スタッフが個別支援計画に基づき必要な支援を行うものである。平成30年11月から医療的ケアを必要とする児童の受け入れを開始。

〈日課表〉（平日の場合）

時間	活動内容
14:30	登所・荷物整理・検温（随時、医療的ケア）
15:00	
15:30	水分補給
16:30	課題活動・個別活動・健康チェック
17:00	降所開始
	降所

・ 利用者の状況（延べ人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
28年度	46	39	48	49	39	48	47	56	39	24	34	39	508
29年度	34	38	44	35	41	59	41	62	45	43	49	51	542
30年度	44	61	64	54	47	52	63	59	50	55	69	55	673

・ 各療法士の実施回数

週1回（不定期、祝日のある週を除く）、個別活動・自由活動の時間帯（15:30～16:10）に実施。

	28年度	29年度	30年度
理学療法士		22	21
作業療法士		14	12
言語聴覚士		3	5
計		39	38

ウ 通所関係統計資料

表1 疾患別構成（各年度3月1日現在）

	28年度	29年度	30年度
脳性麻痺	0	4	2
その他の脳性運動障害	4	4	3
運動発達遅滞	0	1	0
進行性神経・筋疾患	0	0	1
染色体異常	1	0	3
奇形症候群	0	0	0
その他	5	2	2
計	10	11	11

表2 退所後の進路

	28年度	29年度	30年度
普通小学校	0	0	0
普通小学校（特別支援学級）	0	0	0
支援学校（知的障害）	0	1	1
支援学校（肢体不自由）	2	1	3
保育所	0	0	0
幼稚園	0	2	0
児童発達支援	3	1	0
その他	0	0	0
計	5	5	4

表 3 居住地別構成

		28年度	29年度	30年度
県北	福島市		1	1
	二本松市			
	伊達市			
	本宮市			
	伊達郡			
	安達郡			
県北計		0(0%)	1(8.3%)	1(9.1%)
県中	郡山市	8	7	6
	須賀川市	1		
	田村市			2
	岩瀬郡			
	石川郡			
	田村郡		1	
県中計		9(81.8%)	8(66.7%)	8(72.7%)
県南	白河市			1
	西白河郡			
	東白川郡			
県南計		0(0.0%)	0(0.0%)	1(9.1%)
会津	会津若松市			
	喜多方市			
	耶麻郡			
	河沼郡	1	1	0
	大沼郡			
会津計		1(9.1%)	1(8.3%)	0(0.0%)
南会津郡		0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
相双	相馬市			
	南相馬市		1	1
	相馬郡			
	双葉郡			
相双計		0(0.0%)	1(8.3%)	1(9.1%)
いわき市		1(9.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)
県外				
その他(不定)				
合計		11(100%)	12(100%)	11(100%)

表 4 通所・理学療法疾患別対象児数

	28年度	29年度	30年度
脳性麻痺(リスクを含む)	1	2	1
その他の脳性運動障害	4	4	3
二分脊推・脊推疾患	0	0	0
進行性神経・筋疾患	0	0	1
骨・関節疾患	0	0	0
染色体異常	1	0	2
(精神)運動発達遅滞	1	2	0
その他	2	1	1
計	9	9	8

表5 作業療法年間疾患別対象児数

	28年度	29年度	30年度
脳性麻痺	1	2	1
その他の脳性運動障害	1	4	3
運動発達遅滞	0	1	0
進行性神経・筋疾患	0	0	1
染色体異常	1	0	2
奇形症候群	1	0	0
その他	2	2	2
計	6	9	9

表6 言語聴覚療法年間疾患別対象児数

	28年度	29年度	30年度
脳性麻痺	0	0	0
その他の脳性運動障害	0	0	0
運動発達遅滞	0	0	0
進行性神経・筋疾患	0	0	0
染色体異常	0	0	0
奇形症候群	0	0	0
その他	0	0	0
計	0	0	0

表7 心理検査年間件数

	28年度	29年度	30年度
知能検査	0	0	0
発達検査	3	7	5
性格検査	0	0	0
その他	0	0	0
計	3	7	5

(3) 母子入所部門

障がいに対する早期療育の目的で、痙性麻痺を呈する乳幼児に対し、概ね2ヶ月にわたり、手術、後療法、保育、母親教室（医療・福祉面、栄養指導等）を行っている。

<日課表>

時刻	児 童 日 課
7:00	朝食
9:00	回診（木）自主訓練
10:00	※保育
12:00	昼食

時刻	児 童 日 課
13:30	入浴（月・金）自主訓練
17:00	夕食
21:00	消灯

※ 保育：センター内検討会で適否を判断。

2 診療相談

(1) 一般入所の概要

[本年度の特徴]

一般病院への入院と同様で、おもに小児整形外科領域の手術を受けるための入所が多く、対象疾患として先天性股関節脱臼、先天性内反足、大腿骨頭すべり症、ペルテス病、脳性麻痺など多岐にわたる。最近ボトックス療法も取り入れられている。また、内反足に対するアキレス腱切腱術などの小手術を行う場合、本人、家族の負担の軽減のため、日帰り入所も行っている。

(2) 外来患者の概要

[診療予定表] (R元. 10. 1現在)

受付 午前8時30分 ~ 午後 4時30分

	月		火		水		木		金		備 考
	AM	PM									
整 形 外 科	○	○	○	○	○		○				
小 児 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
精 神 科			○	○	○		○	○			
耳 鼻 咽 喉 科		○	○	○	○	○	○	○	○	○	水曜日 眼科診療日以外
眼 科					○						第2、4水曜 午前のみ
泌 尿 器 科					○						第1、3水曜 午前のみ
歯 科			○	○	○	○	○	○	○	○	

※ 整形外科を除いて、各診療科、完全予約制。

① 年間外来診療件数 (4. 1~3. 31)

		28年度	29年度	30年度
医科	整形外科	4,049	3,823	3,428
	小児科	5,862	5,798	5,816
	耳鼻咽喉科	2,764	2,640	2,247
	精神科	3,250	3,298	3,262
	眼科	395	375	409
	泌尿器科	131	126	128
歯科		2,638	2,832	2,701
訓練	リハビリテーション科	11,294	11,065	9,545
計		30,383	29,957	27,536

(3) 整形外科

[本年度の特徴]

福島医大との連携のもと、福島県の障がい児医療、小児整形外科医療の中核としての役割を担っている。小児整形外科全般にわたる外来・入所治療、手術療法を行っている。特に小児股関節、軟部組織の異常の診断においては従来のX線撮影の他、侵襲の少ない超音波（エコー）を取り入れるようになった。

また、脳性麻痺の痙性麻痺に対しボツリヌス毒素を用いた治療も行っており、件数も増えている。

最近の手術療法の傾向として脚長不等に対する骨端軟骨成長抑制術の件数が増加している。

① 年間診療件数

28年度	29年度	30年度
4,049	3,823	3,428

② 疾患別初診件数

	28年度	29年度	30年度	
脳性麻痺（リスクを含む）	23	15	8	
その他の脳原性疾患	4	1	1	
運動発達遅滞	10	24	21	
精神遅滞	0	2	5	
足変形	30	15	17	
先天性股関節脱臼	12	16	15	
臼蓋形成不全	16	9	15	
開排制限	3	1	2	
染色体異常	ダウْن症候群	3	3	4
	その他の染色体異常	3	1	0
下肢変形	35	17	18	
歩容異常	1	6	2	
四肢奇形	3	5	4	
手指変形	0	1	1	
筋性斜頸	5	3	1	
脊椎側彎症	10	12	8	
ペルテス病	2	4	7	
大腿骨頭すべり症	3	3	4	
二分脊椎	1	1	2	
骨系統疾患	4	4	2	
進行性神経・筋疾患	0	0	1	
先天性多発関節拘縮症	1	0	0	
脊髄損傷	0	0	0	
頭部外傷後遺症	2	0	0	

その他	52	68	66
合 計	223	211	204

③ 疾患別手術件数

	28年度	29年度	30年度
脳性麻痺	23	18	21
先天性股関節脱臼	6	4	8
先天性内反足	12	7	4
筋性斜頸	2	1	0
四肢外傷後遺症	1	3	0
二分脊椎	5	2	2
先天性多発性関節拘縮症	1	1	0
先天性奇形	5	5	1
大腿骨頭すべり症	5	5	7
ペルテス病	1	1	3
滲出性中耳炎	0	0	0
その他	22	15	13
計	83	62	63

④ 補装具処方数

	28年度	29年度	30年度
義肢	0	1	0
上肢装具	0	0	2
体幹装具	30	38	23
下肢装具	206	221	203
ペルテス病装具	1	1	3
先天股脱装具	5	5	2
内反足装具	15	15	17
車椅子	101	68	63
電動車椅子	6	4	2
座位保持装置	80	67	48
歩行器	7	12	4
頭部保護帽	4	4	4
歩行補助杖	0	1	0
その他	30	8	15
計	485	445	386

(4) 小児科

[本年度の特徴]

平成30年度は、常勤医2名と福島県立医科大学附属病院及び大原総合病院小児科から応援を頂き外来診療を行った。

前年度同様、発達遅滞を含む発達障がい中心の新患予約がほとんどであり、発達の検査、診断、療育指導及び保育所、学校等との連携が重要な役割となっているが、年々、新患の診療待ち期間が長期化し、更に再診数の増加もあり、診療間隔も長くなる傾向にある。

① 年間診療件数

28年度	29年度	30年度
5,861	5,811	5,821

② 疾患別初診件数

	28年度	29年度	30年度
脳性麻痺（リスクを含む）	4	4	1
精神遅滞	58	32	14
運動発達遅滞	7	3	1
けいれん性疾患	0	0	0
広汎性発達障害	78	61	56
LD・ADHD	6	8	13
頭部外傷後遺症	1	0	0
神経感染症後遺症	0	0	0
無酸素性脳症後遺症	1	1	0
脳血管障害	0	0	1
脳奇形	0	0	0
二分脊椎	0	1	0
奇形症候群	0	0	0
染色体異常	6	3	3
神経・筋疾患	1	0	0
言語発達遅滞	17	13	26
機能性構音障害	0	0	0
難聴	0	0	2
その他	22	25	25
計	201	151	142

(5) 耳鼻咽喉科

[本年度の特徴]

当センターは、新生児スクリーニング検査後の精査機関であり、新生児聴覚スクリーニングの普及に伴い、0～6ヶ月児の新患が増加している。

そのため、6ヶ月未満の難聴の発見、補聴器装用指導を含む療育が増えている。さらに、人工内耳の手術適応年齢も低年齢化し、それに加え人工内耳の両耳装用が可能となったことで、療育の必要な難聴児が増加している。

福島県は、難聴発見率が全国第1位であり、当センターは福島県の難聴児の90%を診断し療育しており、今後ますます当センターの果たす役割が重要になると考えられる。

また、言葉の遅れ、発音の異常についても、現在、小児科や小児精神科で早期の対応が難しいため、当科を先に受診する症例が増え、聴検と同時に言語評価がますます増加している状況である。

① 年間診療件数

28年度	29年度	30年度
2,764	2,640	2,247

② 疾患別初診件数

	28年度	29年度	30年度
難聴（疑いを含む）	175	175	118
構音障害	38	28	30
耳介外耳道奇形	0	1	0
言語発達遅滞	32	14	17
口唇・口蓋裂	0	0	0
耳垢栓塞	7	10	6
中耳炎・鼻炎・アレルギー性 鼻炎	5	8	5
副鼻腔炎	6	4	5
鼻咽腔閉鎖不全症	0	0	1
その他	15	13	24
計	278	253	206

(6) 精神科

[本年度の特徴]

年々、診療件数が増加している。新患受診の内訳をみると、ほぼ発達障害の患者であり年齢層も低年齢化しており、就学前の幼児が半数近くを占める。また、発達障害に情緒障がいや不適用行動などの合併症がみられる。

① 年間診療件数

28年度	29年度	30年度
3,250	3,298	3,262

② 疾患別初診件数

	28年度	29年度	30年度
精神遅滞	5	2	2
言語発達遅滞	2	0	0
ADHD/LD/チック	10	0	6
ASD/自閉症	163	99	89
広汎性発達障害			
睡眠障害	0	0	0

	28年度	29年度	30年度
摂食障害	0	0	0
適応障害	8	1	4
精神病	1	0	0
不安障害	2	0	0
その他	0	1	2
計	191	103	103

(7) リハビリテーション科

[本年度の特徴]

各訓練とも、横ばいの状態である。

① 年間診療件数（通所を含む）

28年度	29年度	30年度
11,294	11,065	9,545

② 理学療法

[本年度の特徴]

新規処方年齢は6歳以上で増加しており、特に18歳以上が年々増加する傾向にある。

ア 新規処方数

年 齢	28年度	29年度	30年度
0～5ヶ月	2	0	0
6～11ヶ月	2	5	6
12～17ヶ月	4	1	8
18～23ヶ月	9	5	0

2歳	3	4	2
3～5歳	11	8	10
6～12歳	25	19	27
13歳～	66	71	83
計	122	113	136

イ 疾患別対象児数

	28年度	29年度	30年度
脳性麻痺（リスクを含む）	167	171	174
その他の脳原性疾患	83	87	77
二分脊椎・脊椎疾患	16	14	13
進行性神経・筋疾患	30	28	23

	28年度	29年度	30年度
骨・関節疾患	20	9	8
染色体異常	17	16	16
（精神）運動発達遅滞	26	21	23
その他	23	20	20
計	382	366	354

③ 作業療法

[本年度の特徴]

自閉スペクトラム障害児が外来児の過半数を占めている。

なお、イの分類について平成29年度より若干の変更を行った。

ア 新規処方数

平成28年度	平成29年度	平成30年度
132	91	79

イ 疾患別対象児数

	28年度	29年度	30年度
脳性麻痺（リスクを含む）	52	48	49
その他の脳原性疾患	46	50	48
二分脊椎・脊椎患者	4	4	5
進行性神経・筋疾患	10	9	9
骨・関節疾患	1	1	0
染色体異常	17	16	14
（精神）運動発達遅滞	44	44	37
自閉スペクトラム障害等	277	276	234
その他	10	7	9
計	461	455	405

ウ 訓練開始時年齢

		28年度	29年度	30年度
0歳	0～5ヶ月	1	1	1
	6～11ヶ月	4	4	4
1歳	12～17ヶ月	6	7	6
	18～23ヶ月	19	19	17
2歳		94	91	80
3～5歳		235	231	204
6～12歳		95	95	86
13歳		7	7	7
計		461	455	405

④ 言語聴覚療法

訓練と検査を含めた新規処方と継続を含めた対象児数は、706名、訓練と検査を行った延件数は2,716件であった。

ア 新規処方数

28年度	29年度	30年度
278	257	199

イ 言語障害別対象児数

		28年度	29年度	30年度
脳性まひ（リスクを含む）		8	5	11
精神（運動）発達遅滞		36	28	6
発達障がい（SAD、ADHD等）		137	139	99
言語発達遅滞		28	27	15
聴覚障害	その他（疑いを含む）	351	316	267
	補聴器	206	165	198
	人工内耳	73	68	57
機能性構音障害		54	27	29
口唇口蓋裂		0	1	0
吃音		1	1	5
染色体異常		3	5	4
後遺症		6	1	5
その他		4	8	0

⑤ 心理検査・療法

[本年度の特徴]

心理検査は、小児科のオーダーによる発達評価が多くを占め、約1～2年の間隔で実施している。対象は、身体的な合併を伴う児も含め様々であるが、近年は、発達障がい児に対する評価が非常に多くなっている。

心理療法は、二次障害や不定愁訴等を対象とし、カウンセリング、遊戯療法を実施しており、発達評価だけではなく心理的支援のニーズが高まっている。

なお、昨年度より正規職員が1名増となったこともあり、心理療法の件数が大幅に増加した。

		28年度	29年度	30年度
心理検査	知能検査	863	977	885
	発達検査	226	303	238
	性格検査	0	2	0
	その他	1,017	1,029	865
心理療法	集団	0	0	0
	個人	7	4	164
	箱庭	2	0	0
	その他	0	0	0
計		2,115	2,315	2,152

(8) その他の診療科

① 歯科

担当医：療育センター歯科協力会

[本年度の特徴]

齲蝕症で受診した患者には、歯肉炎を併発している割合が多い。

入所児に対して定期的に歯みがき指導を行っている。

ア 年間診療件数

28年度	29年度	30年度
2,638	2,832	2,701

イ 疾患別初診児数

	28年度	29年度	30年度
外傷	0	1	0
齲蝕症	29	18	19
歯髄炎	0	0	0
根尖性歯周炎	2	2	0
歯肉炎	19	24	19
歯周炎	1	0	2
咬合異常	1	0	0
欠損	0	0	0
その他	8	6	6
計	60	51	46

② 眼科

[本年度の特徴]

屈折異常（特に遠視性乱視、近視性乱視が多い）と斜視の受診児が多く、これらに対して眼鏡の装用を指導し視機能の向上を目指している。

ア 年間診療件数

28年度	29年度	30年度
395	375	409

イ 疾患別初診児数

	28年度	29年度	30年度
屈折異常	24	28	23
斜視	1	6	4
視覚発達遅延	0	0	6
眼底・視神経疾患	0	0	2
先天異常	0	0	0
眼振	0	2	0
結膜炎	1	1	0
眼瞼内反症	0	0	0
一般	0	0	0
その他	1	3	2
計	27	40	37

③ 泌尿器科

[本年度の特徴]

患者の多くは、二分脊椎、脊髄損傷等による神経因性膀胱の患児である。自己導尿を行っている患児の定期的な診察と検査（検尿・エコー・膀胱造影）を実施しフォローしている。

ア 年間診療件数

28年度	29年度	30年度
131	126	128

(9) 薬剤部、臨床検査、放射線、地域支援室

① 薬剤部

ア 年間処方件数

	28年度	29年度	30年度
外 来	4,290	4,400	4,435
入 所	2,130	1,704	1,390
計	6,420	6,104	5,825

② 臨床検査

ア 年間臨床検査数

	28年度	29年度	30年度
血液・生化・血清検査	8,576	7,086	7,345
尿検査	3,063	3,240	3,192
細菌検査	133	113	193
電気生理検査	328	293	345
病理学検査	0	2	0
その他	64	109	115
計	12,164	10,843	11,190

③ 放射線室

ア 年間撮影件数

		28年度	29年度	30年度
一般撮影	外来	2,445	2,341	2,465
	入所	658	667	887
C T撮影	外来	46	59	96
	入所	8	9	7
計		3,157	3,076	3,455

④ 地域支援室

平成17年4月から設置

ア 肢体不自由児地域リハビリテーション支援事業

平成17年度から、地元の医療機関で継続した訓練が受けられるよう、理学療法士や作業療法士、保健師などが応援スタッフとして赴き技術支援を実施している。

実施地域	実施医療機関	登録者数		実施(回)	実施人数(人)				
		理学療法	作業療法		理学療法		作業療法		個別相談(所外)
					実	延	実	延	
相 双	南相馬市立総合病院	9	7	24	9	95	7	84	54
県 南	埴厚生病院	6	3	24	6	94	3	7	31
計		15	10	48	15	189	10	91	85

打合せ及び会議…事業打合せ1回、事業反省会2回、事業評価会1回

イ 保健・医療・福祉相談

電話や面接形式で保健・医療・福祉に関するあらゆる相談を受けている。相談内容としては、在宅療養支援サービスの1つである「短期入所事業に関する相談」や「治療・訓練目的の入所(通所)相談」、「児の療育相談と関係機関との連携」などが多い。

これらの相談に対し、情報提供を含めた助言、及び児童相談所をはじめとした地域の保健・医療・福祉担当者と連携した対応を行っている。

なお、平成28年度より短期入所、契約入所に関する事務手続きについても地域支援室で行っている。また、処遇困難等のケースについては、ケース会議やサービス担当者会議を開催または参加している。

ケース会議等の開催…年15回

(件)

相談内容	手段	電話	面接	計
短期入所事業に関するもの		380	263	643
入所・通所に関するもの		136	148	284
医療給付に関するもの		5	4	9
福祉制度に関するもの		22	20	42
療育に関するもの		77	70	147
その他		64	70	134
計		684	575	1,259

3 短期入所事業及び日中一時支援事業

- ・利用状況（利用定員 6人/日）

			28年度	29年度	30年度
新規契約数			36	17	※ 48
利用 内 訳	短期入所 (宿泊)	実人数	77	37	42
		件数	78	141	203
		延べ日数	255	420	580
	日中一時支援 (日帰り)	実人数	141	167	45
		延べ日数	237	276	363

※ 内訳:短期入所22件、日中一次支援23件

- ・短期入所委員会…年3回実施

4 保育所等訪問支援及び障害児相談支援・特定相談支援事業

(1) 実施機関

「児童発達支援センター そよかぜ」(H27年4月開設)

(2) 基本方針

当センターの専門スタッフが、障がい児及び障がいの疑いのあるお子さん（障がい者を含む。）を持つご家族等（以下、「利用者」と言う。）から相談を受け、生活の適応、向上のためのアドバイスを行う。

また、必要に応じ、利用者が通う保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校等を訪問し、集団生活適応のための専門的な支援を行う。

(3) 支援方法

① 保育所等訪問支援

- ・ 支援に際し、利用者だけでなく、利用者を取り巻く生活環境（家族、施設等）を含めた多面的な視点でとらえることで、相談内容に応じた専門スタッフをチーム編成し効果的かつ専門的な支援を行う。
必要に応じて、利用者が通う保育所等を訪問し、担当職員等も交えて支援内容を話し合う。
- ・ 利用者と話し合いながら、ひとりひとりに合ったサービス等利用計画を作成し、きめ細かい支援を継続的に行う。

② 障害児相談支援及び特定相談支援

利用者から電話等でご相談をいただき、直接アドバイスを行うとともに、サービス等利用計画に基づき、継続的なサービス利用の支援を行う。

(4) 利用日及び利用時間

月曜日から金曜日までの午前9時から午後5時まで

国民の祝日及び年末年始（12月29日から1月3日まで）は、休業日。

(5) 対象者

① 保育所等訪問、障害児相談支援及び特定相談支援（共通）

肢体不自由、知的障害、難聴、重症心身障害、発達障害等の障がいのあるお子さ

ん及び障がいの疑いのあるお子さん。(障がい者を含む)

② 保育所等訪問支援

保育所、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校等へ通い、受給者証を取得している利用者。

(6) 対象地域

郡山市内に在住の方。

当センターを利用している場合は所在を問わず利用できる。

(7) スタッフ

保育士（相談支援専門員） 1名…専従

心理判定員、医療技師等（PT、OT、ST）看護技師、保健師…兼任

(8) 事業実績

サービス等利用計画、モニタリング作成件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
サービス等利用計画	14	11	8	7	6	10	9	7	10	10	9	16	117
モニタリング	3	6	5	6	1	5	12	6	11	3	5	6	69

サービス等利用計画の内容（延べ数）

医療型児童 発達支援	児童発達 支援	放課後等 デイサービス	短期入所	保育所等 訪問支援	療養介護	生活介護
6	23	37	30	9	1	1

市町村別利用者数

郡山市	福島市	白河市	いわき市	田村市	平田村	川俣町	三春町
75	4	1	0	1	2	2	1
県外							合計
0							86

5 発達障がい者支援センター

(1) 設立の目的

当センターは、発達障害者支援法に基づく支援機関である。福島県在住の自閉症などの発達障がいのある方やその家族が安心して暮らすための支援をするとともに関係機関と連携を図りながら身近な地域での支援体制の整備を目的としている。

(2) 発達障がいとは

発達障害者支援法では自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などの脳機能の障害で通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものとされている。(発達障害者支援法第2条)

(3) 業務内容

① 相談支援

日常生活等に関わる相談を受け、助言や福祉サービスの情報提供を行う。

② 発達支援

発達の状態について、医学的な診断や発達検査等による評価を行い、発達障がい者及びその家族や関係機関に対して助言を行う。

③ 就労支援

就労を希望する発達障がい者に対して就労に向けての必要な相談を行うとともに、必要に応じて労働関係機関と連携を図る。

④ 普及・啓発活動

発達障がいについての正しい情報や社会的支援の必要性について、より多くの方々に理解していただけるよう普及・啓発を行う。

(4) 実施件数

① 相談支援(就労支援を除く)・発達支援(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

年齢層	実支援 人員
0～3歳(乳幼児前期)	49
4～6歳(乳幼児後期)	46
7～12歳(小学生)	79
13～15歳(中学生)	31
16～18歳	22
19歳以上	128
不明	92
合計	447

障がい種別	実支援 人員
自閉症	81
アスペルガー症候群	11
広汎性発達障害	30
注意欠陥多動性障害 (AD/HD)	30
学習障害 (LD)	2
その他(発達性言語障害・協調運動障害等)	8
不明(未診断も含む)	285
合計	447

相談内容(重複有)	延支援 件数
相談の対象となっている児(者)が発達障がいかどうか知りたい	184
現在の生活に関することや、家庭で家族ができることを知りたい	24
利用できる制度について知りたい(手帳、年金、手当、障がい福祉サービスなど)	14
診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい	142
現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい	12
進路や将来の生活に関する相談をしたい	9
対応困難な状況の改善について相談したい(強度行動障害、ひきこもりなど)	25
今後の就労について相談したい	17

相談内容（重複有）	延支援 件数
現在勤めている職場に関する相談をしたい	7
その他	146
合 計	580

② 相談支援(就労支援に重点を置くもの)・就労支援(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

年齢層	実支援 人員
0～3歳(乳幼児前期)	
4～6歳(乳幼児後期)	
7～12歳(小学生)	
13～15歳(中学生)	
16～18歳	
19歳以上	9
不明	6
合 計	15

障がい種別	実支援 人員
自閉症	4
アスペルガー症候群	1
広汎性発達障害	1
注意欠陥多動性障害 (AD/HD)	3
学習障害 (LD)	0
その他(発達性言語障害・協調運動障害等)	1
不明 (未診断も含む)	5
合 計	15

相談内容（重複有）	延支援 件数
相談の対象となっている児（者）が発達障がいかどうか知りたい	3
現在の生活に関することや、家庭で家族ができることを知りたい	1
利用できる制度について知りたい（手帳、年金、手当、障がい福祉サービスなど）	4
診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい	7
現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい	3
進路や将来の生活に関する相談をしたい	0
対応困難な状況の改善について相談したい（強度行動障害、ひきこもりなど）	1
今後の就労について相談したい	31
現在勤めている職場に関する相談をしたい	6
その他	14
合 計	70

③ 普及・啓発活動

	実施回数	延参加人数
センター主催で企画した研修（実施状況下記5に記載）	49	338
外部から講師依頼を受けた研修（講師派遣）	68	1,398
合 計	117	1,736

④ 関係施設・関係機関等との連携

	実施回数	延参加団体数
調整会議	3	46

⑤ 支援機関に対する訪問相談支援事業

対象機関	実支援箇所数
保育所	2
幼稚園	5
児童クラブ	3
合 計	10

(5) 主催研修の実施状況

① 家族のためのワークショップ事業

対象者： 発達障がいまたは発達障がいの疑いのある方の家族

内 容：ア 発達障がいのある子どもの理解と支援（講義）

イ サポートブックについて（講義）

ウ 情報交換（グループワーク）

実施月日	実施場所	参加者数
平成30年10月 5日（金）	いわきサンアビリティーズ	36
平成30年11月13日（火）	会津若松コミュニティ施設「ピカリンホール」	15
平成30年11月27日（火）	南相馬市原町保健センター	15
平成30年12月18日（火）	マイタウン白河	23
平成30年12月19日（水）	県総合療育センター	45
平成31年 1月17日（木）	福島市保健福祉センター	38
合 計		172

② 発達障がい専門療育力向上事業

対象者： 発達障がい児（者）の支援機関（障害児通所支援事業所、障害福祉サービス事業所等）

内 容：事例検討会を実施し、地域の専門家に助言を依頼する。

実施月日	事例提供機関	助言者	参加者数
平成30年11月 1日（木）	児童発達支援・放課後等デイサービスleaf	特定非営利活動法人 夢あるき 理事長 森田まゆみ 氏	37
平成31年 1月25日（金）	特定非営利活動法人太陽放課後等デイサービスどんぐり	よこはま発達クリニック 院長 内山登紀夫 氏	34
合 計			71

③ ペアレント・トレーニング講座

参加者：保護者7名

内 容：発達障がいのある子どもの特性に合わせた関わり方を学ぶことができ、講義だけでなく少人数のグループワークや、家庭での実践を通して学べるプログラム。

日 時：全9回の連続講座・所要時間60～90分程度

1クール … 平成30年6月～9月

2クール … 平成30年11月～平成31年2月

(6) 被災した障がい児に対する医療支援事業実施状況

内 容：東日本大震災又はそれに伴う原発事故により避難している、発達障がいの疑いのある児童について、来所又は巡回により診察を行う。

来所相談 … 2回 2名

巡回相談 … 4回 8名（いわき市：3回 6名、川内村：1回 2名）

6 その他

(1) 実習生・ボランティア受入

作業療法臨床実習	実人数 1人、受入延日数 32日
言語聴覚療法臨床実習	実人数 1人、受入延日数 40日
看護実習	実人数 88人、受入延日数 307日
保育実習	実人数 9人、受入延日数 66日
ボランティア	富田町ボランティアクラブ 15人 日大工学部ジャグリング同好会 6人 ホスピタルクラウン 16人 本宮シンフォニックバンド 18人
歯科実習生	実人数 41名 受入延日数 82日
高校生一日看護体験	実人員 6名 受入延日数 6日
医学部実習	実人数 30名 受入延日数 30日
星総合病院視察研修	PT研修 2人 受入延日数 3日 OT研修 2人 受入延日数 2日 ST研修 4人 受入延日数 4日

(2) 外部講演会講師・ケース検討会等（言語聴覚士、作業療法士、理学療法士）

[言語聴覚療法外部依頼関係]

実施月日	内 容
平成30年6月15日	小野田小学校ケースカンファレンス・講師
平成30年6月26日	郡山市おやこふれあい教室講師
平成30年7月11日	保育所訪問（飯坂恵泉幼稚園）
平成30年7月20日	浅川町・石川町ことばの教室講師
平成30年8月3日	特別支援教育センター自主研修講座講師・聴覚支援学校ケース検討会
平成30年9月18日	郡山市おやこふれあい教室講師

平成30年11月2日	浅川町・石川町ことばの教室講師
平成30年11月26日	郡山市おやこふれあい教室講師
平成30年12月4日	聴覚・言語障害教育指導研修会「構音障害」講師
平成31年2月5日	郡山市おやこふれあい教室講師
平成31年2月25日	郡山市ペンギン教室講師
平成31年3月7日	浅川町・石川町ことばの教室講師

[理学療法外部依頼関係]

実施月日	内 容
平成30年10月 5日	特別支援教育センター 研修会講師
平成30年10月15日	両沼保健事業連絡協議会 講師

[作業療法外部依頼関係]

実施月日	内 容
平成30年 6月29日	県立相馬支援学校 専門家派遣による児童生徒及び教員支援
平成30年 8月 3日	養護教育センター 自主研修講座講師 「うごきに課題のある子どもの理解と対応」

(3) 公開講座

療育に関する知識を啓蒙するために、だれでも参加できる「公開講座」を開催している。

日 時：原則毎月第2金曜日 午後4時～

場 所：総合療育センター会議室

参加費：無料

平成30年度

開催月	講 師	講 座 の 内 容
4月	医師（整形外科）	脳性麻痺について
5月	医師（耳鼻咽喉科）	難聴と療育について
6月	医師（精神科）	困っているのはどんなこと？ ～本人の視点で考える～
7月	医師（小児科）	感染症について学びましょう
8月	特別教育支援センター、指導主事	特別支援教育について
9月	医師（精神科）	発達障がいについて
10月	心理判定員	心理検査結果の活かし方 ～つまずきの原因の理解と対応のコツ～
11月	言語聴覚士	LD・ADHD等の心理的疑似体験をしてみよう
12月	理学療法士	ポジショニングの基本的な考え方
1月	作業療法士	子どもの福祉用具展（キッズフェスタ）の紹介
2月	心理判定員	発達障がいについて ～認知特性とそれに基づいた支援～